

## アジア視察報告＜ 1 3 ＞

視 察 項 目	環境・エネルギー施策について
視 察 日 時	2024年10月27日（日） 午後3時00分～4時00分
視 察 先 名	BYD（比亞迪汽車株式会社、Build Your Dreams） 深圳販売店
説 明 者	BYD深圳販売店 アカウントセールス担当 周 佳莉 氏
担 当	嶋田 和明、高橋 美里、田倉 俊輔

### 【はじめに】

海外視察8日目の午後を迎え、アジア視察団は専用車で深圳市南山区へ向かった。南山区は、深圳市の南西部、深圳湾に面しており、市内に蛇口港を有し、香港との玄関口となっている。車窓からは、南山区は深圳のハイテク産業拠点であるゆえに、工業団地や大規模なハイテクパーク、多くのハイテク企業等の様子を伺うことができた。これらの多様な産業システムを背景に発展しているBYDの販売店とEVステーションの最先端の技術について理解を深め、本市における電気自動車や環境技術の施策の参考にしたいと考え視察を行うこととした。

### 【BYDの概要】

#### 1. 企業概要

BYDは、中国の深圳市に本社を構える多国籍企業で、電気自動車（EV）、バッテリー技術、エネルギー貯蔵システムの分野で世界的なリーダーである。1995年に設立され、当初はバッテリーの製造に特化していたが、その後、電動モビリティ、公共交通機関、再生可能エネルギー等の分野に事業を拡大している。2023年には電気自動車を300万台販売し、世界一位の販売台数を誇っている。

#### 2. 事業分野

BYDは「グリーンエネルギー」の提供を理念とし、バッテリーから再生可能エネルギーまで幅広い分野で事業を展開している。

① 電気自動車（EV）

乗用車から商用車まで幅広いEVを製造しており、先進的な電池技術とコスト競争力で市場シェアを拡大している。

② バッテリー技術

BYDは特にリチウム鉄リン酸（LFP）バッテリー技術で知られ、その一例として「ブレードバッテリー（Blade Battery）」が挙げられる。この技術は高い安全性と長寿命が特徴で、火災リスクが低減されている。

③ 電動公共交通機関

世界各地の都市に電動バスや電動タクシーを提供し、持続可能な交通手段の普及に貢献しており、特にヨーロッパやアメリカ、アジアの主要都市で、BYDの電動バスが多く導入されている。

④ 再生可能エネルギーとエネルギー貯蔵

ソーラーパネルやエネルギー貯蔵システムを提供し、再生可能エネルギーの分野でも活動している。太陽光発電とエネルギー貯蔵システムの組合せで、持続可能なエネルギーの利用を支えている。

3. グローバル展開

BYDは中国国内だけでなく、世界各国に拠点を構えている。主な輸出市場としては、ヨーロッパ、北米、アジア、ラテンアメリカが挙げられ、EVや電動バス、エネルギー貯蔵ソリューションを各地で提供している。また、2020年には日本市場に進出し、商用電動バスを提供している。さらに、ノルウェーではEVの販売を開始するなど、グローバル展開を加速している。

4. 持続可能性への取組

BYDは、環境負荷を低減し持続可能な社会を実現するため、電動化と再生可能エネルギーの普及に力を入れている。カーボンニュートラルを目指した生産工程や、リサイクル可能な材料の使用に加え、グリーンエネルギー技術の開発も行っている。



BYD深圳販売店のショールームにて



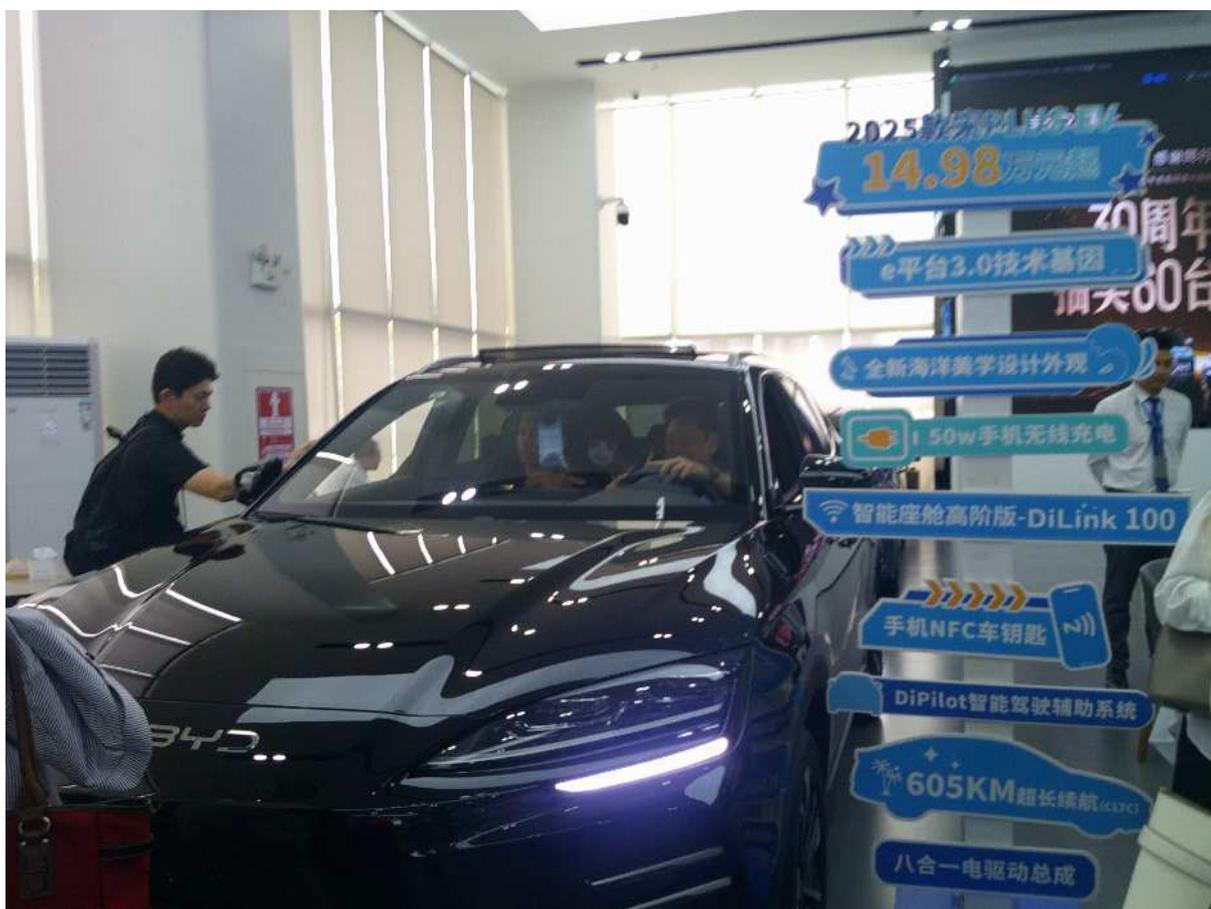
BYD深圳販売店のショールームにて、通訳を介して説明を受ける。

## 【質疑・応答】

Q1 : 車のコンセプトや特徴について、説明いただきたい。

A1 : BYDはバッテリー技術における革新を続け、コストの削減や安全性の向上、充電効率の改善を実現している。特にブレードバッテリーは、一般的なLFPバッテリーの課題を克服し、高いエネルギー密度と火災リスクの低減を同時に達成している。また、BYDは自社でチップ開発も行っており、半導体不足のリスクに対応できるような自給自足の体制を構築しつつある。さらに、AIや自動運転技術の開発にも積極的に投資し、将来のモビリティ市場での競争力強化を図っている。

自社作成のバッテリーを車体の底に配置しているため、車内空間はとても大きい。ぜひ、試乗して実感していただきたい。



試乗を行い、車内空間を見る



車内の様子。運転は、販売店の営業職員。

Q 2 : 走行距離について教えてほしい。

A 2 : 電気とガソリンのハイブリッド車だと約1,500 kmである。電気だけだと1回の充電で約600 kmである。販売店では、すべての自動車を外で試乗ができる仕組みとしている。

Q 3 : どこで充電をしているのか。

A 3 : 深圳市の多くの場所に国やBYDにより、充電ステーションが設置されている。BYD車は、どこにおいても充電が可能である。充電時間は、車体にコネクタが2種類あり、小さいコネクタで約7～8時間、大きいコネクタで約2～3時間で満充電となる。



車体に充電するコネクタの接続部分の様子

Q 4 : 新たに車を購入し、自宅の駐車場で充電したい場合は、どうするのか。

A 4 : 購入後2年間、BYDが無料で自宅に充電装置を設置することになっている。

Q 5 : 集合住宅やマンションで充電したい場合は、どうするのか。

A 5 : 深圳市では、すべてのマンション等の地下駐車場に充電装置が設置されている。普及が進んでいるため心配は無い。どんなブランド車も充電が可能である。

Q 6 : 充電電池は、何の種類を使っているのか。また、国からの補助の制度はあるのか。

A 6 : すべてBYD自社で研究開発をした電池である。安心安全である。国は、全国普及を進めるため原則として国が負担をして充電ポイントを設置している。



BYD製の充電ポートの様子



国が設置する充電ステーションの機器の様子

## 【総括】

BYDは成長を続けるEV市場でリーダーシップを発揮しながら、バッテリー技術の発展とエネルギー貯蔵ソリューションの普及に力を入れるとともに、AIや自動運転技術の導入等を進め、次世代のモビリティ企業としての地位を確立することを目指している。電動モビリティと持続可能エネルギーのリーダー企業として、バッテリー技術やエネルギー貯蔵システムでの先進性を強みに、世界のEV市場やエネルギー分野で急成長しており、今後も技術革新とグローバル展開を通じて、持続可能な社会の構築に向けた貢献が期待される。

今回の視察では、国・行政からの強力な支援のもと深圳市を有効な研究場所やモデルケースとして、徹底した電動化を理解することができた。今回の視察の午前中に行った百度（バイドゥ）深圳支社の「自動運転タクシー」も車体をBYDが開発をしているとのことで、深圳市関連企業

が先端技術で結び付き合い、開発発展に寄与していることを伺い知ることができた。また、深圳市のまちづくりの観点でも興味深いものである。本市において、将来に向けて自動運転バスの運用や環境エネルギーの開発について検討を進めていく上で、大いに参考になると考えられる。引き続き、深圳市におけるBYDの技術開発と発展の動向を注視し、本市の交通課題の解決の参考にするべきである。1時間程度の短い内容であったが、有意義な視察となった。



BYD販売店前にて、アジア視察団一行。  
右端が説明を担当したアカウントセールス担当の周氏